



Hosei University

・ 2015 年度 ・

学生が選ぶ
ベストティーチャー賞

実施報告



法政大学
教育開発支援機構

2015年度 法政大学
学生が選ぶベストティーチャー賞

よい先生?

「ベストティーチャー」を日本語に訳すと「最もよい先生」となるということなら中学生でも分かりますが、「よい先生とはどんな先生か」と聞かれると、そう簡単に答えが出せそうにありません。

「教え方のうまい先生」「気さくな先生」「熱心な先生」などなど、思い浮かぶことはたくさんあるでしょうが、それがそのまま

「よい先生」の定義になるのかと改めて考えると、分からなくなってきました。

もしかしたら、卒業して10年後に振り返ってみると「頑固で分からず屋の先生」が大学時代に自分をいちばん成長させてくれた「よい先生」だったことに気付く、ということだってあるかもしれません。

「自分にとって一番よい先生は?」と考えることは、「自分が求めているのはいったい何?」に気づききっかけにもなるでしょう。

「ベストティーチャー賞」が学生の皆さん自身のそんな振り返りにも役立てれば、と願っています。

教育開発支援機構長 文学部教授 中釜 浩一

あなたにとっての一番良い先生は誰ですか?

法政大学「学生が選ぶベストティーチャー賞」の目的は、学生の学生による学生・教員のための「理想的な授業をしている先生を選んで表彰する」ということです。2015年度の実施では、「学生が選ぶベストティーチャー賞」実行委員会（教育開発支援機構長、FD推進センター長、代表学部長、学生FDスタッフ担当教員、そして学生FDスタッフで構成されている）による企画・実施を行いました。結果として1,246件の投票があり、得票数および投票理由（コメント）に基づき、以下5名の受賞者を選出しました。なお、最高票数獲得した先生を最高票数獲得票として特に表彰することとしました。

選出結果



最高票数獲得賞 後藤 一美 (法学部教授)

部門賞

学生の知的好奇心を満たし、
 専門知識を身につけさせる
 授業をしている
 部門

田中 研之輔

キャリアデザイン学部准教授

森 聡

法学部教授

部門賞

授業の運営を工夫している
 部門

後藤 一美

法学部教授

部門賞

学生ときちんと向き合ってくれる
 (授業外でも)
 部門

塩崎 公靖

兼任講師(市ヶ谷パラルアートセンター授業担当)

筒井 知彦

経営学部教授

(敬称略)

受賞教員紹介

Best Teacher

最高票数獲得賞

授業の運営を
 工夫している 部門

法学部教授
後藤 一美

- 主な担当科目 国際協力論、国際協力講座、グローバル・ガバナンス、演習(国際開発協力論)
- 専門分野・研究テーマ 開発援助政策論、国際協力論、グローバル・ガバナンス政策研究



受賞の感想

戯去戯来自有真

2015年度ベスト・ティーチャー賞受賞の感想としては、次の三点です。

第一に、「**二年連続受賞**」というところが、正直、うれしい限りです。小職は、本学で2014年度に初めて設けられたベスト・ティーチャー賞を総勢11名の教員と共に受賞の栄に浴しました。図らずも、2015年度も連続して受賞した教員は小職を含む二名のみということを知るにつけ、この事実の重みを改めてかみしめる次第です。また、本年度は「**最高票数獲得賞**」を頂いているところ、想定外とはいえ、正直、うれしい限りです。

第二に、昨年度に引き続き「**学生が選ぶという選考方法**」での受賞というところが、正直、誉れです。また、本年度は「**授業の運営を工夫している部門**」でも**ダブル受賞**したということは、日頃の授業方法が受講生諸君に認められている証左であろうと、それなりに手応えを感じる次第です。部門賞受賞教員がベスト・ティーチャーなら、受講生もベスト・スチューデント。「**夢追うものは夢をもつかむ**」をモットーに、各自の夢実現にむけて頑張ってください。

第三に、「**定年退職間近の受賞**」というところが、正直、心憎い限りです。小職は、<第一の天職>として、30年間にわたって開発途上国支援業務に従事した後、ご縁あって、1999年秋から本学で教鞭を執ってきました。18年目を数える2016年度は、70歳の小職にとって法政での最終章となります。「**戯去戯来自有真**」の心境で、「**教職**」という<第二の天職>を全うしたいと思う今日この頃・・・

2015年度ベスト・ティーチャー賞、ありがとうございます。

【註】「戯去戯来自有真」:「戯れ(たわむれ)去り、戯れ来たり、おのずから真(まこと)あり」と読みます。人間の人生は、過ぎ去ってしまえば、戯れのように、はかないかもしれない。されど、それがゆえに、毎日、一生懸命生きていく事が大切であり、そこに、本当の真実があると言う意味です。

授業に心がけていること/工夫

(1)「授業の進め方」

本講義は、グローバル時代の開発と援助をめぐる諸問題について、「**開発援助政策論**」(援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ)の観点から、ドキュメンタリー映像等を用いながら、現代の国際開発協力の現状と課題(「日本の国際開発協力」を含む)を考察するとともに、自分の意見を取りまとめることによって、国際協力論の基礎知識と応用力を身につける。

(2)「授業の方法」

本講義は、①映像(日本語・英語)、②講義・資料解説、③質疑応答の3点セットを組み合せながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としていない。また、教授による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習(グループ・ディスカッション等)とプレゼンテーション(マイクを通じたコメント・意見表明)を随所に設けることにより、受講者の表現能力向上にポイントを置いている。

(3)「学生へのメッセージ」:

「夢追うものは夢をもつかむ」

①地球上どこでも、自然体で、感じ・考え・行動したい!②自分らしさを発揮して、「Something New」を創造したい!③主体性と自律性をもって、自分の夢を追いかけたい!と思う学生の積極的受講を期待する。

[出典]2016年度「国際協力論」シラバス

履修学生の声

後藤先生の授業は学生に意見を求めながら行われている双方向の授業です。一回または複数回の授業に渡って、1つのテーマについて講義した上で学生にマイクを渡し、意見を聞いています。テーマは、「戦後70周年」や「持続可能な開発目標

SDGs」等、ホットな話題が多く取り上げられています。それらを中心とした国際協力について、学ぶ考えることができました。

また、発言した学生に「1分以内3点でまとめるよう」、「なぜそう思ったのか」のように深く掘り下げ、学生と同じ目線に立って一緒に考えてくれています。私は最初の頃に、発言することに抵抗がりましたが、そのうち、大勢の前で発表することに慣れ、簡潔に分かりやすく説明できるようになりました。

後藤先生の授業を履修して、考える習慣を身に付け、自分の専門分野に長期的視点を持つようになりました。その中、特に良かったと思ったのは以下の2点です。

1. 国際協力の多様性を知ることができたことです。「国際協力」と聞いたとき、最初はNGOだけが頭に浮かんできましたが、その後、それ以外の様々なアクターもいろんな方法で行われていることを知りました。
2. 昨年夏にバングラデシュでグラミン銀行のインターンに参加したきっかけになったことです。社会問題の投資という観点から問題解決を行うという内容のインターンです、それに参加することで、国際協力の現場を自分の目で見る事ができて、理論と現実のギャップを感じる事ができました。

「明日の自分を創造したい」と思う学生に、ぜひ後藤先生の授業をおすすめしたいと思います。国際協力は私たちに遠いことだと思ってしまうかもしれませんが、あらゆる場面で日本は関わっています。例えば東海道新幹線も世界銀行(国際機関)からの援助があって作られたものです。それに将来私たちが勤める機関、企業の中でも、国際協力に関する業務や取り組みが行われているところが多いと思います。そういった意味でも国際協力について学ぶことは、自分の未来を考えるきっかけになると思います。



キャリアデザイン学部准教授 田中 研之輔

- 主な担当科目 ライフキャリア、キャリア体験学習、演習(ライブ)
- 専門分野・研究テーマ ライフキャリア論、社会学、キャリアインターンシップ

Best Teacher

学生の知的好奇心を満たし、
専門知識を身につけさせる
授業をしている 部門

受賞の感想

専門知識の味わい方と活かし方を受講学生一人一人に伝達していくのが教員の役割。コンサートに行くようなワクワク感を毎回の講義で創れたらと思っています。今回の受賞を糧に、さらに一人でも多くの学生が「学ぶことは楽しい、最高の贅沢なんだ」ということを実感してくれるように日々取り組んでいきます。ありがとうございました。

授業に心がけていること/工夫

受講者が主体的に取り組む「学びのコミュニティ」の創出を大事にしています。
①教員からの専門知識の伝達の時間
②個人個人が課題に向き合うワークの時間
③それをグループで共有し練り込む時間

④受講者全体で共有しさらに洗練する時間
⑤教員からフィードバックする時間の5つの時間を90分内で毎回展開していきます。参考文献等の紹介や専門知識の系譜は、グループウェアを使用し、授業外にも各自のペースで学べるオンラインラーニングも導入しています。

履修学生の声

最初は先生が担当する必修授業である「ライフキャリア入門」を履修しました。その授業では、単なる講義型ではなく、外部のゲストの方を招いて講演をするような形で行われており、内容が面白かったです。先生の話や外部からのゲストの話やグループワークによって新たな考えが生まれ自分自身の視点が広がるのがとても

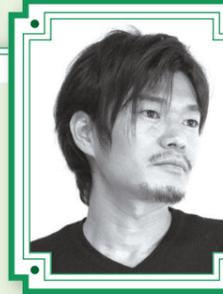
良かったです。そして社会人になったときに使える基礎的なスキルが身につくことができました。

授業のおすすめポイント

- いろんな視点から学ぶことができる。
- 授業のライブ感やスピード感が良い。新鮮さがあるため、ずっと聞いていたくなる。
- 先生がエネルギーが豊富。先生の授業を受けていると元気が貰える。

学生目線での先生の工夫。

- 受講者の学習環境を作ることが上手である。みんなが楽しく学べるように作っている。
- 学生目線で真摯に向き合ってくれる。勉強のきっかけ作りをととても上手にしてくれる。質問にも丁寧に答えてくれる。また、レスポンスが早い。



市ヶ谷リベラルアーツセンター 授業担当兼任講師 塩崎 公靖

- 主な担当科目 スペイン語、スペイン語の世界
- 専門分野・研究テーマ スペイン・バスク地方の歴史・文化

Best Teacher

学生ときちんと
向き合ってくれる
(授業外でも) 部門

受賞の感想

まずは、兼任講師の身でありながら、学生の皆さんに選んでいただいたことは素直に嬉しいニュースでした。本当にありがとうございます。
同じ大学の出身で、この賞をいただいたことが、皆さんにとって何かよい刺激になればと思うとともに、今回の受賞に慢心せず、今後も学生と向き合いながら、「受けてよかった」と思ってもらえる授業づくりに取り組んでいきます。

授業に心がけていること/工夫

普段の生活の中ではなかなか触れる機会の少ない(と思いがちな)スペイン語という言語を身近なものとして感じてもらうこと、また、ゼロからのスペイン語の学習を通じて、その他の言語や専門分野を学習する際のやり方を気づいてもらう授業にすること、などいろいろありますが、まずは「大学の勉強=楽しい」ということを思ってもらえるようにしています。

履修学生の声

スペイン語の授業では、先生が作成したプリントが配付されます。そのプリントの内容はとても分かりやすく、学生の中で好評でした。授業中でも先生が以前留学

した経験から、現地で実際使われている表現や文化等教科書にない知識も教えてくれます。

先生は一人ひとりの学生に向き合っていて、先生との距離がとても近いと思います。これから留学する学生に留学に関する体験談や、就職活動に関する話はもちろん、大学生活に関する様々なアドバイスもしてくれます。そのおかげで、モチベーションも高められ、いつも楽しく受講することができました。

この授業を履修して、スペイン語のことも好きになったし、将来スペイン語に留学しに行きたいと思うようになりました。まさに「もう一度履修してみたい」と思える授業でした。

Best Teacher

学生の知的好奇心を満たし、
専門知識を身につけさせる
授業をしている 部門

- 主な担当科目 「国際政治学I」(2016年度より「国際政治学入門」)、「国際政治学II」(2016年度より「国際政治の理論と現実」)、「Hosei Oxford Programme」(2015年度の担当)、「演習 国際政治学」
2016年度は次の科目も担当予定:「アメリカ外交史」、「International Politics」。
- 専門分野・研究テーマ 国際政治学、現代アメリカの外交・安全保障政策

法学部教授 森 聡



Best Teacher

学生ときちんと
向き合ってくれる
(授業外でも) 部門

- 主な担当科目 国際会計論、財務会計特論、会計学入門、演習
- 専門分野・研究テーマ 財務会計論

経営学部教授 筒井 知彦



受賞の感想

とても意外でした。投票に参加した学生諸君の判断基準に興味を持ちました。

授業に心がけていること/工夫

興味深いことを、できるだけ分かりやすく解説しています。単に知識を伝えるのではなく、受講生が様々な事象をみる視角が増えるようにしています。

履修学生の声

森先生の授業は、毎回授業の最後に課題が出されます。そしてその課題について、次の授業で考えていくという進め方を行っているため、毎回授業の間につながりがあります。ディスカッションでは三つのグループに分かれ、話し合ったうえで、意見交換を行います。毎回、各班が文献を整理して発表します。その発表内容に対し、わからないことがあれば学生が質問します。授業中のディスカッションでは先生が学生に意見を聞きます。また、英語の文献に関する補足説明もしてくれます。授業外だと先生も含めて年に2、3回懇親会を開催しました。休憩時間も和

気藪々と話をしてくれています。
先生の授業のおすすめポイントは「ディスカッションが楽しい」、「ビジネスマナーも身に付く」この二つです。前回出された課題についてみんなで考え、意見を出し合えるので、建設的に話すことができます。また、先生は「社会人になって恥ずかしいことがないように」とビジネスマナーや一般的なマナーについても教えてくれます。
森先生はオンとオフの切り替えがわかりやすいです。休み時間はオフモードに入って、学生とのコミュニケーションを楽しみ、そして授業が始まると表情が変わるので、こちらも身が締まります。

受賞の感想

「ベストティーチャー賞」を授与していただき、誠にありがとうございます。このような賞をいただくのは気が引ける思いですが、講義の取り組みを評価していただいたことは大変光栄なことと思っております。学生の皆さんの積極的な取り組みがあってこそこの結果だと思っております。

授業に心がけていること/工夫

授業では一方通行にならないよう、リアクションペーパーに質問を書いてもらい、次回の講義の冒頭で回答しています。また、可能な限り学生の希望日時にあわせてオフィスアワーを実施しています。これらは、数多くの先生がされておられることだと思います。その他、演習ではLINEのグループトークを活用して研究グループごとに情報共有していることが工夫といえるかもしれません。

履修学生の声

先生の授業ではレジュメを使って行われています。内容の解説は丁寧で、とても分かりやすいです。就活に関する話もしてくれたので、とてもためになったと思います。この授業を受ける前は会計という言葉に難しさを感じていましたが、やってみると意外と面白い学問だと思えるようになりました。そして、毎回出席カードを配っています。授業の疑問点などがあれば出席カードに書いて提出すると、次回の授業で詳しく解説してくれます。先生の授業を受けると、企業の中身も分かるようになりますので、これから就活準備を行う学生にもおすすめです。

授業の進め方における工夫

- 学生に大勢の前で意見を述べさせるというのが授業の特徴で、**人前で話す訓練になるだけでなく、発言をうまくまとめるよう指導**してくれる。
また、他の学生の意見を聞くことで勉強にもなるし、「この人のような発言ができるようになりたい」と向上心が高まる。
- 一方通行の授業ではない。
常にマイクを学生にまわすことで、**学生に考えさせ、自分自身で学ぶ姿勢**を身につけさせてくれる。
- **学生の考えを3点で述べさせる授業方式**は、考える力を身につけさせるだけでなく、就活・社会に出た時にも役に立つと思う。
- **答えをあえて教えず**、学生の考えを尊重してくれている。
- 自分の将来について**いろいろな可能性を提示**してくれるし、人前で簡潔に話す自信がついた。
- **自分でアプローチ**することが多く、授業に参加できて楽しい。
- **積極的に学生たちと相互的な授業**で、飽きずに楽しく受けられる。
また、常に刺激を感じつつスキルを上げることができる。
- 授業の質はもちろん、それ以上に、**先生が研究者としてのプロフェッショナルな心構えを持ち、日々の研究に臨んでいる姿**は僕の将来の1つの指針になるだろうと思う。
- **1分以内に、3点で自分の考えを述べる**ということを課される。これを繰り返すことにより、はじめはなかなかまとまらない考えも、しばらくすると自然にまとまるようになる。
- より良い授業にするため、**独自のアンケート**を実施している。そのアンケートをもとに、毎年改良をしていた点がとても良いと思う。
- 知的好奇心を満たすだけでなく、必要な能力をつけるために、**カリキュラムや授業の進め方を臨機応変**に対応して下さるところ、**社会に出ても自立し、貢献できる人材を育てる**ところにも重きを置いて下さるところ。

授業内容を分かりやすく伝える工夫

- 毎回、昨今の**国際社会で起こっている 이슈に関するビデオ**を見て、それに関して各々考察するので、思考力がつく。
- 毎回**ゲストスピーカー**を呼び、幅広い分野を網羅することができ、尚且つ学生が**自由に質問**できるので、大変有意義な授業だと感じる。
- 外部の経営者の方をゲストスピーカーとして呼び、その経験が、**インターンをしたいというような気力を生み出して**くれたり、社会に出るための最初の一步にすんなり入るような授業が展開されている。
- 授業はわかりやすいように簡単なことから教えてくれて、**今の世界の状況を知る**ことができる。
授業内容以外のためになる話もしてくれる。
- 授業内容に**具体例**があり、とてもわかりやすい。
また就職のことも話してくれる。
- 授業内容と絡めて**就活前に企業分析**としてやっておけることを教えてもらったので、授業に興味を持って聞くことができ、就活も今から準備しなければならないとやる気を引っ張り出してくれる。
- **企業の実際のデータ、ビデオによる学習**等を通じて、難しい内容を学生に興味を持ってもらうよう工夫してくれると共に、就職活動と結びつけた話をしてくれるので、3年生としての意識を高めてくれた。
- 授業の内容はもちろん、**就活やインターン、その他現在の企業の状況**等とてもためになる話を毎回してくれる。
- 難しい問題を学生にも**分かりやすく解説**する。
また、興味を示しやすい授業構成である。
- 授業内で出てくるひとつひとつの**専門用語のつながり**がわかりやすい。
- 難しい理論もすごくわかりやすく教えてくれる。
授業後の質問にも答えてくれる。

- とても難しく単調になりがちな内容を**噛み砕いて説明**するのがとても上手で、興味深く授業が聞ける。
また、授業後に**質問をととても丁寧に答えてくださる**ので、授業への理解度が高まる。
- 具体的な事件に当てはめつつ、説明してくれている。**理論を学ぶだけでなく、使えるところまで**教えてくれている。また、先生自身が研究を続けて、そこで得た最新情報や、過去の歴史の真実等も、時々話してくれる。
- **難しい理論をズバツと明確に説明**してくれるので、毎回の内容はとてもわかりやすくてためになる。
- 一方通行の授業ではなく、学生の発言を聞きつつ、その学生が答えられる限界まで質問することで**問題点や論点を明快に示**してくれる。
- 一回の授業の中で**ポイントを押さえつつコンパクトにまとめてくれる**のでわかりやすかった。
教科書を読んで分からなかったところも丁寧な説明で理解することができた。
- **実際に現場で働かれていた内容**が含まれている。
それを基に授業してくれるのが嬉しい。
- **プリント(レジュメ)がいつも分かりやすい**。
質問に対してもすごく丁寧に例を挙げながら答えてくれる。
社会に出ても自立し、貢献できる人材を育てるところにも重きを置いて下さるところ。



授業環境作り、学生との交流への工夫

- 学生に対して**厳しくも愛のある指導**を行っている。
- 学ぶことに対して**とても熱い**。
学びやすい、発言しやすい環境を作ってくれる。
- **リアクションペーパー**の些細な質問にも答えてくれる。
- 先生が楽しそうに授業をするので、**先生のやる気**を感じる。
- 真面目に授業を受けている学生の事を考えてくれて、**私語に厳しかった**。
話がわかりやすく、**レジュメに関して各部分の量と内容が絶妙**だった。
- 学校の外でも指導してくれる。
また、先生は**学生一人一人と真剣に向き合い**、学生が元気のないときに声をかけてくれている。
- バーチャルセミナーというメーリングリストの形をとっており、**24時間365日先生からの指導をゼミ生全員が受けることができる**。
- 学生のことを本当によく見ている。
どんな学生にも**長所を見出し、それを伸ばす**ようにしてくれる。
- 自分の発言に対してしっかりとしたコメントをくれる。
そして批判等ではなく、「ではこのような topic はどうだろう」というような**次の指針を与えてくれる**。
- 授業外でもよく相談ののってくれる。
就職活動についても心の支えになった。
- **レジュメは教科書より分かりやすく**、説明もしっかりしてくれる。
分からないことだらけなのに、すごく分かりやすく学ぶことができた。
- **授業のない日でも教室を開放**して、質問を受け付けてくれる。

学生FDスタッフの活動

2015年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」は、

～「法政大学に入って良かった」と思えたあの授業、あの先生～ をテーマに、

1. 学生の知的好奇心を満たし、専門知識を身につけさせる授業をしている
2. 授業の運営を工夫している
3. 学生ときちんと向き合ってくれる(授業外でも)

この3つの部門を設定して、
11月2日～20日の間に学生による投票を実施しました。

その後、11月28日に実行委員会による選考会を行い、
5名の受賞者を選出しました。

チラシ▶



投票用紙▶

3キャンパスでの実施の様子

投票期間中は、学生FDスタッフが法政大学公式キャラクターのえこびよんと一緒に、3キャンパスで投票の呼びかけを行うなど、昨年度よりさらに広報活動に力を入れた成果、昨年度より2割多くの票を集めることができました。普段なかなか行けないキャンパスの学生・教職員との交流もできました。



▲ポスター



▲多摩キャンパス



▲市ヶ谷キャンパス



▲小金井キャンパス

選考会・表彰式

11月28日に実行委員会による選考会が行われました。
12月25日に「第10回デジタルコンテンツ・コンテスト」、「第8回 FD学生の声コンクール」の授賞式と合わせて、市ヶ谷ポアソナード・タワー26階A会議室にて、表彰式が開催され、受賞教員へ田中優子総長、学生FDスタッフより表彰状および記念品が授与されました。



▲選考会の様子



▲表彰式



▲田中総長から
最高投票数獲得賞の授与



◀後藤教授の
スピーチ

座談会

祝賀会后、ポアソナード・タワー3階のピア・ラーニング・スペースに場所を移し、「法政大学の教育の強みについて」というテーマで、受賞教員、実行委員会教員、学生FDスタッフによる座談会が開催されました。



学生FDスタッフの紹介

法学部法律学科 4年 近藤 桃

「学生FD」の名前は以前から学内で見る機会があり、活動に興味を持っていました。しかし、名前から堅くて難しそうなおイメージがあったため、「私にできる事なのだろうか」、「途中から入っても良いのだろうか」と、加入を迷っていました。就職活動が落ち着いた頃に2015年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」(以下BT賞)の広報スタッフ募集を見つけ、残り少ない大学生活を悔いの残らないものにするためにも、まず一歩を踏み出そうと強く思い、申し込みをしました。早速、3キャンパスでの広報活動に参加しました。はじめは緊張しましたが、メンバーは皆「楽しむときは楽しむ、まじめに取り組むときは真剣に」というメリハリのある雰囲気、すぐに馴染むことができました。活動を通して普段行く機会のないキャンパスにいき、多くの学生や教職員と話すことができたと思います。同じ大学でもキャンパス、学部ごとに多彩な色があると感じ、楽しみながら広報活動に参加することができました。



BT賞終了後は日本大学で開催された「学生FDサミット2016春」のポスターツアー出展用ポスターの作成にも参加しました。ポスター作成時に経験豊富なメンバーたちから「BT賞」以外の企画の話や聞き、もっと早い学年から参加すればよかったと思うこともあり、「思い立ったら即行動」。参加することに迷っている方がいたら、ぜひ早めに行動しましょう。きっと、学生FDスタッフにしかできない経験を積み重ねることができると思います。

法学部法律学科 2年 平城 葉子

今まで知らなかった良い授業をより多くの学生に知ってほしいと思い、「学生が選ぶベストティーチャー賞」の実行委員である学生FDスタッフに参加しました。大学では、自由に授業を選ぶことができますが、どの授業を履修したら良いか、シラバスの情報だけでは少し物足りないと思います。この活動を通じて、「先生は学生にしっかり向き合ってくれる」、「興味のある分野についてわかりやすく学べる」という良い先生・良い授業の情報を広げ、授業履修の際の参考になればと思います。

学生FDスタッフの活動はサークル活動と異なり、教職員の方々や学生が同じ目的・目標を持って一緒に活動できることが魅力の一つです。立場、学年、活動経験年数に関係なく、誰でも自由に発言できます。また、他人の前で発表する機会も多くあります。私は、人前で話すのがあまり得意ではありませんでしたが、活動をしていくうちに苦手意識は薄れていきました。来年度は、自分の意見を積極的に発言するように心をかけながら、中心メンバーとして活動に関わって行きたいと思っています。



文学部哲学科 3年 山澤 良乃

大学一年生の時、とてもためになる衝撃的な授業に出会いました。そこからもっと大学生活が面白くなるような授業はないか考え始めました。しかし、私の知っている情報やシラバスだけでは本当に良い、素敵な授業を見つけることは難しいな、と思いました。そこで学生FDスタッフの存在を知りました。私たちの意見やアイデアが反映され、授業をよりよくしていくための活動が出来ます。「学生が選ぶベストティーチャー賞」は市ヶ谷キャンパスだけではなく、多摩キャンパス、小金井キャンパス、田町校舎でも行いました。普段はなかなか他キャンパスに行けませんが、活動を通して多くの学生と触れ合うことが出来ました。明るく、ささくにに応じてくれる学生の温かさを感じることが出来ました。また、ベストティーチャーに選ばれた教員の方や担当授業の受講生にインタビューさせていただいたのも貴重な経験でした。授業を展開する教員も、受講する学生も本当に楽しそうに生きていく様子やインタビューから伝わってきました。また、全国私立大学FD連携フォーラムの学生企画、学生が選ぶベストティーチャー賞の座談会では司会を務めました。ただ趣旨を伝えるだけの司会進行ではなく、言葉に心をこめて聞き手に伝わりやすい心がけをしました。事前に職員の方や他のスタッフの意見を聞きながら、何度も練習を重ねましたが、実際みんなの前に立つと、とても緊張しました。だからこそ無事に終わったとき、大きな達成感を得ることができました。学生FDスタッフに入っていなければこんなにも多くの方々に関わることが出来なかったですし、法政大学にこんなに良いところがたくさんあることに気づきませんでした。この活動の良さをより多くの学生に知ってもらい、一緒に活動できたらうれしいと思います。



社会学部社会政策科学科 3年 頼住 直輝

私が学生FDスタッフに参加したいと思ったのは、教職員の方々や、自分と同じ学生スタッフの皆さんと力を合わせて「より良い教育」についての活動することに魅力を感じたからです。普段、教職員の方々は教育を「する側」ですし、私たち学生は教育を「受ける側」です。しかしFD活動には、「受ける側」である学生が、「する側」である教職員の方々と対等な立場で意見を交わすことのできる環境があります。これは、サークルやアルバイトではなかなか経験できないと思います。

活動中、「学生が選ぶベストティーチャー賞」の実施とその広報の展開が最も印象に残っています。賞の部門分けや周知の仕方等に関する話し合いから始まり、3キャンパスで投票を呼び掛ける活動など、密度の濃い充実した活動だと思います。また、他大学の方々と教育について話し合ったり、話し合った内容をまとめたうえで発表するなど、大学の垣根を越えた交流活動もありました。このように、学生FDの活動は個人ではなく複数人のチームで行うものであり、チームワークやディスカッションの力を学び、伸ばすことができたと思います。

私だけ多摩キャンパスの所属で、毎回の会議や活動に往復約4時間をかけて市ヶ谷キャンパスに行っていました。大変だと思うときもありましたが、この活動は大学にも役立つし、自分のためにもなると思いますので、最後まで継続して活動していきたいと思っています。



文学部地理学科 3年 大橋 浩平

学生FDスタッフに参加したきっかけは「授業について考える」ということに興味を持ったからです。大学の授業は、高校の授業と違って自分の好きな授業を自由に履修することができます。授業の内容・数はとても豊富で、先生の人数も非常に多いです。一人ひとりの先生はどのような想いを持って授業に臨んでいるのかを知りたいと思いました。

今回の「学生が選ぶベストティーチャー賞」は2回目の実施です。あらかじめテーマを設定し、部門別で投票を行うことにしました。「部門をいくつにし、どのような文言にするか」「どのように周知していくか」等、たくさんの課題がありました。実行委員でじっくり話し合い、今回の実施案を作り上げました。広報活動や選考会においても、教員・職員・学生の三位一体の協力があってこそ、前回の実施より、2割多くの得票数を得ることができたと思います。しかし、新たな課題がまた浮上しました。来年度は4年生になり、この活動に関わるのも最後の年になりますが、今までの経験をいかし、新たな挑戦に臨み、より成長した「学生が選ぶベストティーチャー賞」の姿を学内外の教職員、学生に見せたいと思います。



経営学部経営学科 3年 斉藤 茜

「学生が選ぶベストティーチャー賞」は今年度で2回目の実施となります。3部門制にして部門ごとに投票できるようにするなど新たな試みを行い、3キャンパスでの広報の充実を力をつけました。投票数は昨年より2割増になったものの、広報活動や投票の際に「昨年は誰が選ばれたんだっけ?」などという声が多く聞かれました。昨年度は表彰式や冊子作成などで振り返りを行いました。フィードバック不足であると気づかれました。やっただけにしないよう振り返りを充実させ、認知度そして投票数を着実にあげていきたいと思っています。

「学生が選ぶベストティーチャー賞」のほかに、夏休み中に岡山と大阪に行き、自大学の活動紹介を通して他大学の学生や教職員の方々と意見交換をしました。立場や考え方が異なる人とコミュニケーションをとることで自分の視野が広がり、様々な人とのつながりができました。そこでは学生FDの認知度や理解度がまだまだ十分ではないとの声が多く上がりました。これについては「学生が選ぶベストティーチャー賞」の活動を通して肌で感じています。今年度はより多くの学生、教員の方が授業や大学について考えることが身近になるよう機会を広げながら、学生そして教職員の方々も三位一体で活動していきたいと思っています。



教育開発支援機構 FD推進センター
推進プロジェクト・リーダー、学生FDスタッフ担当教員
理工学部教授 川上 忠重

2015年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」が、皆さんの投票を参考に選出されました。昨年度からの変更点として、今年度のテーマ「法政大学に入ってよかった!」と思えたあの授業、あの先生〜に基づき、3部門の観点からの選出となりました。投票に向けた広報活動は、市ヶ谷、多摩、小金井キャンパスにおいて、学生FDスタッフが中心となり、その趣旨、投票方法や部門について、積極的に行ってくださいました。昨年度と比較して、投票数も20%程度UPし、少しずつではありますが、学生の意見を直接聞ける「貴重な場」として、各キャンパスにおいて浸透しているのを実感しております。

皆さんの思い描くベストティーチャーは、学年、科目や専門性を含めた多角的な要素を含んでいますが、その情報は、教員にとっても極めて重要です。今後も、「学生が選ぶベストティーチャー賞」へのご協力・応募を、よろしくお願いいたします!

経営学部経営学科 4年 林 大気

大学3年生の7月頃から今年で、約1年半の間、活動してきましたが、学生FDスタッフに参加したきっかけはゼミの教授にすすめられたからです。その時、「とりあえずやってみよう」という気持ちではじめましたが、活動を続けていくうちに「大学をよくするために活動している」という自覚が芽生え、やりがいも感じるようになりました。

特に、学生スタッフの先輩後輩や担当職員の方々と共に力を合わせて活動していくことで、協調性を身につけることができたと思います。もともと私は、周りの人と協力してなにかをやることで苦手でしたが、FDスタッフの活動を通じて少しずつ、人と協力することの楽しさを感じるようになりました。ベストティーチャー賞の企画から実施までをスタッフみんなでやり遂げられたことは、自分にとってかけがえのない財産になりました。



文学部日本文学科 3年 深澤 郁乃

大学に入って「机の上で学ぶだけが学習ではない」と思いました。大学一年生の時、希望した学部に進学でき、自分の知りたいことを思う存分学び、充実で楽しい日々を送っていました。そのうちに、大学の授業は受身だけではないと思うようになりました。課外活動やキャリア教育、自分の研究分野とは全く違った分野の講座等がたくさんあります。視野を広げて、自らの知らないことにチャレンジすれば、知識以外の様々なものも得ることができるはず。このような机上の「学び」とは違う「学び」をしたく、学生FD活動を始めました。

学生FD活動はサークル活動と違って、楽しいこともありますが、大変なことが多いと他大学の学生スタッフと交流した際にも共感していました。その中の一つは、自分の苦手なことにも向き合わねばならないことです。人前では話さず口や筋道の通った考えを主張することなどが、とても難しく大変だと感じましたが、「克服しなければ自分も成長できないし、活動の次のステージにも進めない」と思い、その苦手なことに向き合うことに決意し、自分との戦いを始めました。

学内の教職員・学生を始め、社会人の方や、他大学の方と交流する機会が多くありました。活動をしていくうちに、自分の弱みを克服することができ、活動を楽しめるようになりました。

来年度は、今まで学んだ経験等を活かし、最後までしっかりと活動をしていきたいと思っています。

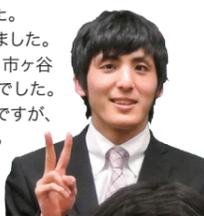


文学部地理学科 3年 三橋 央嵩

最初に、学生FDの活動内容について、詳しく知りませんでした。友達に声をかけられ、大学の教育をより良くしていくために活動している団体であることを知り、興味を持ちました。私は中学校教員を志望しています。そのため、良い教育について常に意識し、考えています。それを今の立場である学生目線と将来同じ立場になりうる教員目線の二つの観点から見るようにしています。

今年度の「学生が選ぶベストティーチャー賞」のミーティングでは、毎回、教員・職員・学生が参加しました。学生目線からの考えや、教員ならではの見解等があり、教育に対して様々な角度から勉強することができました。それは、普段の大学生活でなかなか経験できないことで、とてもためになりました。広報活動では、どのようにすればより多く学生に参加してもらえるかについても試行錯誤を重ね、教職員、そしてほかの学生メンバーと協力し合って行ってきました。

今年度は3週間に渡る広報活動を行ってきました。他キャンパスで広報キャンペーンを行う日は、市ヶ谷キャンパスで活動できるのが私しかいませんでした。人通りの多い外濠校舎入口にいて、心細かったですが、一人で私の呼びかけを聞いて投票してくれる人がいたらと思い、最後までやり遂げることができました。



今年度もみんなに
会いに行きたいピョン!



2016年度も
「学生が選ぶベストティーチャー賞」
を実施します!

受けてよかった
授業を
ぜひ他の人に
教えましょう!

あなたにとっての
良い先生に
ぜひ投票して
ください!

私たちの
「ベストティーチャー」
を選出しましょう!

先生への感謝を
投票に込めて!

学生企画・
実行スタッフは
随時募集して
おります。

• 発行 •

法政大学教育開発支援機構FD推進センター

東京都千代田区富士見 2-17-1

E-mail: fd-jimu@hosei.ac.jp

TEL: 03-3264-9040